

## コミュニティー・オーガナイズの10のステップ

(コミュニティー・オーガナイザーの役割)

上述したコミュニティー組織化運動の具体的なイメージを持ってもらうため、以下にコミュニティー・オーガナイズの10ステップを簡単に紹介する。これは主にフィリピンのPECCO、ACPOの設立当時からコミュニティー・オーガナイザー(以下、CO)として働いているデニス・マーフィーの『A Decent Place to Live』という本に依拠している。

### Step-1【地域に溶け込む】

まず、組織化を行う地域に入り、人々と自然な関係を築くことに努める。事前に、対象となる地域の住民をひとり紹介してもらい、その人脈をたどって地域に溶け込むのがベストなやり方である。もし全く未知の地域に入る場合は、道を尋ねたり食堂での世間話から友人をつくるのがベター。可能な限り、人々の日常生活(仕事や家事、親睦会など)に参加して話題を共有し、違和感無く地域に溶け込めるよう努める。できれば、その地域に住みこむこと。またその住民の大切にしている価値を認めて、それらを尊敬することが必要。

### Step-2【調査(情報収集)】

その地域の政治・経済・社会状況について、体系的に調査して分析する。必要であれば社会学で用いられるような手法(質問紙)を利用できるが、この段階ではできるだけ自然に、日常生活への参加と観察を主な手段として調査を行うことが望ましい。収集すべきデータは、組織化が対象とする問題によって当然、異なってくる。また、今後の組織化において集団行動の核になりうるリーダー候補をさがすことも同時に行う。

### Step-3【暫定戦略の策定】

組織化のための戦略を立てる。この際、具体的に取り組むのが問題の選定が重要であるが、その際には、次の点を考慮する。多くの人に影響を与えることが出来、かつ多くの人とその問題に関心が持てるようなもの、解決可能な問題であること、ドラマティックで将来的に別の問題にもつなげられる問題であること。つまり集団行動のメリットと重要性を住民に認識しても



らいやすい問題に取り組むべきである。また地域の社会状況に応じてどのような形式の組織が最適なのか、誰がどのような役割を果たすことができそうか、専門知識や技術を提供してくれるサポート団体は存在するか、などを考えて暫定的な戦略を立てる。ただし、こうしてできた戦略は、当然住民自身によって承認され実現されるものであるし、住民のアイデアで予想外の方向に進むことがむしろ望ましいケースも多い。これらはあくまでも、CO実践者が自身の組織化活動のために立てる予定であって、地域住民を束縛するようなことは避けられなければならない。

### Step-4【下準備・根回し】

いよいよ組織化に入る。まず人々にやる気を起こさせることが重要。ここでは準備段階として、集団行動に興味と理解を示しそうな住民を対象に、お酒を飲みながら、雑談をしながら、気楽な雰囲気の中で集団行動のメリットと必要性について話し合う。CO実践者は、自分の主張を一方向的にまくし立てるのではなく、むしろ最低限の発話回数で最大限の住民の発言を引き出せるよう工夫する。たとえば「今の生活に不満があるとしたら何か」「その問題の原因は何か」「なぜ解決できないのだろうか」などの質問をゆっくりと繰り返しながら、住民が自分たちの問題を考え、話し合う機会を提供する。必要に応じて、他地域での組織化の成功事例を挙げたり、自分が地域を観察して感じた

ことなどを述べることもできる。このプロセスは、住民との信頼関係を十分に確立した上で(半年以上の地域との関わりが必要)さらに機会をとらえて何度も繰り返しこの話し合いを行う。

最終的に、議論に参加した住民の中から自発的に組織化したいとの意見が出てくれば、集会の開き方など必要な具体的なアドバイスを行う。事態が緊急を要するとき(政府による強制立ち退きが数日後に迫っているなど)は、CO実践者が率先して集会の日時場所決めや、各世帯への連絡などをリードすることも許容される。

### Step-5【住民集会】

下準備・根回しで中心メンバーによる組織化の流れができれば、それを地域全体の流れとするために住民集会を開催する。できるだけ多くの住民が参加できるように、時間や場所を工夫することが重要になる(これによって人々に集団や自分自身の力を認識してもらい、自分が独りぼっちでないことを分かってもらう)。また、中心メンバーが集会の必要性をほかの住民に伝えるために、各世帯を訪問してStep4と同様の話し合いを行うことも効果的である。ただし、あまりに時間をかけすぎると、中心メンバーたちのなかに芽生えていた熱意が冷めてしまう可能性もあるので、効率的な伝達・連絡ができるようにCO実践者がサポートすることも必要である。集会での議事や進め方についても、サポートが必要になることもある。

集会で行われる議論は、抽象的なトピック(「どうすれば生活をよくすることができるか」など)より、具体的な行動計画(「立ち退きを迫る政府と誰がいつ・どこでどのように交渉するか」など)である方が望ましい。Step3で立てた暫定戦略をStep4で中心メンバーと十分に煮詰めていけば、集会の目的は必然的に定まっているはずである。

### Step-6【役割演習・トレーニング】

予行演習。集会で決定された行動計画について、実際の手順・役割分担などを予行演習する。これはどわいけ集団行動の中味が「交渉」である場合に重要なプロセスとなる。そのほかの「事業」タイプの行動である場合は、このプロセスを計画の吟

